

会 議 の 要 旨

会議の名称	第3回川越市介護保険事業計画等審議会
開催日時	平成26年10月29日(水) 午後3時00分 開会 ・ 午後5時00分 閉会
開催場所	川越市北公民館会議室1・2号(1階)
議長氏名	会長 齊藤 正身
出席委員氏名	山根委員、関口委員、川口委員、近藤委員、矢部委員、矢澤委員、 長峰委員、荻野委員、芝波田委員、米原委員、木村委員、原委員、 長田委員、小林委員、矢代委員、横田委員
欠席委員氏名	宮山委員、荻窪委員、若海委員、小野寺委員、橋本委員
事務局職員氏名	高齢者いきがい課：内山課長、佐藤主幹、関根主任、 佐藤主任、真坂主事 健康づくり支援課：神田課長、富田主査、佐藤主任 介護保険課：久津間課長、佐藤主幹、太田主査、鍛冶主査、金田主任、 正田主事、渋谷主事補
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 報告 4 議事 5 その他 6 事務連絡 7 閉会
配布資料	1 次第 2 第2回川越市介護保険事業計画等審議会の要旨…資料1 3 圏域別・サービス別の事業所数…資料2 4 川越市の現状について(第1圏域から第14圏域) …資料3-1から3-14 5 すこやかプラン・川越 - 川越市高齢者保健福祉計画・第6期川越市介護保険事業計画 - の骨子(案)…資料4 6 すこやかプラン・川越の骨子(案)のポイント 7 川越市介護保険事業計画等審議会における今後のスケジュール(案)

議事の経過

1 開会

2 あいさつ

会長による開会のあいさつ。

3 報告

(1) 第2回川越市介護保険事業計画等審議会について

事務局より、資料1を用いて、第2回川越市介護保険事業計画等審議会の開催内容について報告。

4 議事

(1) 介護保険サービスの基盤整備について

事務局より、資料2、資料3-1から3-14を用いて、圏域ごとの介護保険サービス等の現状について説明。

(会長)

在宅療養支援診療所について、みなしのところもあり、訪問診療していないところもある。そのあたりも含め、詳細を調べていただきたい。

委員の皆様、この圏域の資料について、修正や項目の追加等含めご意見はあるか。

(委員)

まず、資料を分析するにあたり、圏域ごとに高齢化率や認定率の差異があると思うが、以前の委員会の資料の中に、圏域ごとの高齢化率・認定率の一覧があったと思うのだが、そのあたりの部分があれば見やすいと思う。

次に、資料2について、事業所の規模の違い等圏域ごとに特色がある。そのあたりを分析する必要がある。また、互いの圏域で融通し合うことも大事な要素だ。今後、事業所の空き状況の情報もとりにこむことが重要である。居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等とネットワークを構築すれば、利便性が利くと思う。

(委員)

地域密着型サービス事業所が少ないのは、需要が少ないことが理由か。

(会長)

地域密着型サービスは、いくつかの地域密着型サービスを組み合わせないと、採算が難しい。その地域にとって何を組み合わせるとよいのかという点については、川越市においても考えていくと伺った。

地域密着型サービスについては、川越市で介護報酬は設定できるのか。

(事務局)

市独自の報酬設定はできます。

(会長)

それが売りになってくると思うので、積極的に考えていただきたい。

(委員)

隣接する圏域別・サービス別の事業所数の説明を受け、第10圏域について、居宅サービス事業所数が多いが認定者数も多い状況の中で、他の圏域から利用者が入ってくることも考慮すると、サービス事業所が多くてもサービスが賄えているとも言いきれない。サービスが足りるのかどうか、実情を把握できればと感じた。

(委員)

高齢者のための医療・看護サービスについて少ない印象を受けたが、件数から現状を把握することが必要である。

(会長)

医療については、川越市医師会の在宅医療の委員会が設置されたので、情報提供できればよいと思う。

(委員)

資料3-1における訪問介護と通所介護の介護度別利用状況の数値は、何に基づいているのか。

(事務局)

月報の請求件数であります。

(委員)

資料3の自主グループをどう位置づけ、活動拠点をどこにするのか。

(事務局)

今回こちらに取り上げさせていただいた自主グループについては、前回の審議会で介護予防の活動として説明させていただいた、いもっこ体操教室等の体操教室から、その後も継続して体操やお茶を飲んだり、レクリエーションを楽しんだり、外部から講師を呼んで学んだりといったことを定期的に行っているグループです。地域包括支援センターが主に把握して関わりを持っているものとして、前回審議会にて100あまりグループがあると説明させていただいたものを、こちらの圏域ごとに記載させていただきました。他にも様々なグループがあると思いますが、その一例として挙げさせていただいたところでございます。

その他にも、今回、市で把握していても挙げられてない絵手紙教室や認知症予防のための運動以外のものも行っているところもあり、また、川越市保健推進員協議会の保健推進員に

においても、定期的に協議会活動として、楽しくリズム体操等の体操を地域の高齢者が集まる
ところで行っていただいているところもあります。このような活動を行っていただいている
ボランティアも資源として非常に重要だと感じております。

(会長)

市で、今回委員の皆様からいただいたご意見も含め、圏域別の現状のデータのバージョン
アップをしなくてはならないし、かつ継続をしなくてはならない。また、どこにどれだけ空
きがあるのかという見える化も大事である。

(事務局)

見える化については確認し、次回報告させていただきたいと思います。また、資料のバー
ジョンアップを行い、第6期に向けてどのように基盤整備していくのかについても次回報告
させていただきたいと思います。

(会長)

病院に入院して、介護保険施設を待つ人もいる。そのことも考慮して考えていく必要があ
る。また、サービス付き高齢者向け住宅が、いくつあって何人入っているのかというデータ
も必要だと思う。

次回までに、訂正また補足した資料を提出していただきたい。

**(2) すこやかプラン・川越 - 川越市高齢者保健福祉計画・第6期川越市介護保険事業計画 -
の骨子(案)について**

事務局より、資料4、すこやかプラン・川越の骨子(案)のポイントを用いて説明。

(会長)

第5期では高齢者保健福祉計画と介護保険事業計画が別々に作成されているが、第6期で
はリンクするところは合わせて作成していくということによいか。

(事務局)

はい。第5期のすこやかプラン・川越の計画書の目次を見ていただくと、第5期について
は第4章、第5章とそれぞれ分けた形で作成しておりますが、第6期においてはこれを一体
的に作成していこうと考えております。また、委員の皆様からご意見を賜れば、内部で検討
していきたいと考えております。

(会長)

このような形で作成していくが、他にも重要項目として掲げるべきものがあつたら、それ
をこの骨子の中に組み込むか、それとも別だてにするか、それを次回までにご意見いただく
ということによいか。

(事務局)

はい。

(会長)

ここで意見のある方は、ご発言いただきたい。

(委員)

基本目標（「団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築します。」）について、団塊の世代のための地域包括ケアシステムの構築と読み取れてしまうので、元気な高齢者が支えていくことによって地域包括ケアシステムが構築されていくという視点を基本目標に組み込んだ方がよいと思う。

(会長)

基本目標については、もっと厚みがあった方がよいと感じる。

(委員)

高齢者が支え手にも回るという視点において、高齢者が住みやすいまちづくりを皆でつくっていくという視点で展開した方がよいのではないか。

(会長)

「生活支援サービスの充実のサポート」という記載をするとよいと思う。行政がやるのではなくて、皆で行っていくという記載がよい。

(委員)

団塊の世代が75歳以上となる2025年に、介護する側は今の30代が多いと思うが、介護する側に向けた情報提供体制として、スマートフォンを使った情報提供体制を調査、研究していただき、情報提供体制の拡充を図っていただきたい。

(会長)

資料4の項目に、市民への情報提供、啓蒙活動を促進していくといった記載を追加してもよいと思う。

(会長)

基本理念（「豊かな歴史・文化にはぐくまれながら、一人ひとりにふさわしく、やすらぎのある生活を送れるまちの実現」）について、「やすらぎのある」とあるが「いきいきとした」という表現の方がよいのではないか。

(事務局)

貴重なご意見として、検討させていただきます。

(委員)

介護サービスの充実について、人材の問題もある。介護サービスを地域で生み、地域で就労してもらうために、啓蒙や啓発といった市としてのアクションが重要だと感じる。教育委員会との連携も必要かと思うが、そのような記載もできればと思う。

(事務局)

2025年を見据えて、国においても、約100万人介護従事者が足りないという報告がされており、介護従事者が増えていかなければサービスの提供が難しくなるので、こちらのご意見についても記載をさせていただきます。

なお、現在、本市では、介護職の紹介ということで、平成21年度から介護の職場を紹介する事業を行っております。

(委員)

川越は都内への通勤圏ということもあり、都内については給与もよいので、人が都内へ流れてしまう。そのため、地元で働けるよう、福利厚生について工夫があればよいと思う。

(会長)

こちらのご意見については、医療についても同様である。

また、最近、新聞で小中学校生の介護体験を観て、よいことだと思った。どの地域においても必要だと思うので、川越市のレベルで動いていけたらと思う。

(委員)

小中学校生の介護体験については、教育委員会との横断的な連携といった視点も入れていただくとうよいのではないか。

(委員)

川越市社会福祉協議会においても、福祉教育として、小中学校に出向き、車いす体験等といった体験学習は進めている。ただ、すべての小中学校で行っているわけではない。

(会長)

子供たちにやりがいのある仕事だなと思ってもらえるような仕組みづくりができたらと思う。また、川越市においては小学校に空き教室が出てきているので、高齢者のいきがい教室等開かれるようになっていき、子供たちに教育していただける高齢者が出てくるとよいと思う。

提案なのだが、川越市が支援を行うような仕組みで、モデル事業のようなものをもっと行っていくとうよいのではないか。第6期では行えなくても、前向きな一文が計画書に記載されるとよい。

(委員)

案として、学校給食を高齢者のためにも使うということで、高齢者に配食するのではなく、

学校に来ていただき子供と一緒に食べるという形の方が、引きこもり対策になる。1年や2年でできる話ではないと思うので、第6期でそれを研究するという形もよいと思う。

(委員)

現状として、他市で事例があるかを調査することが重要であり、このような事業は組織として連携をとらなければならないと思う。

(会長)

ボランティア組織の育成も重要である。いきがいづくりにつながっていく。
シルバー人材センターは、どこが所管か。

(事務局)

高齢者いきがい課で所管しております。原則60歳以上の方を対象とし、ご自分の経験を活かし、適正な報酬で働いていただいております。

(委員)

シルバー人材センターの会員は、お持ちになられている能力を人に教えるといったことはしているのか。

(事務局)

教室については、パソコン教室等を開催しております。また、ボランティア活動として、川越祭りが終わった後に清掃活動等を行っております。

(委員)

シルバー人材センターの会員が、どういった動機で会員になっているのかを見ると、ボランティア活動をしようというより、就労のためになるという動機が割合を多く占めている。

(会長)

ボランティアをすれば、その対価として何かを得られるような発展的な仕組みを作ってもいいと思う。就労については、それはそれで、やりがいやいきがいにつながるので、重要かもしれない。

ボランティアを育成することに関しては、ボランティアが何をするのかについて、内容をもう少し広げていければと思う。さまざまなボランティアの形を皆様で考えていくということはよいと思う。

(委員)

ボランティア連絡会は、さまざまな計画を立て地域の高齢者を呼んでいる。把握してないかもしれないが、このような団体が多くある。さまざまなボランティア団体の代表者と会議をしているので、参考になれば情報提供させていただきたい。

(会長)

目次立てをしたということは、中身を作っていかなければならない。

また、若い世代のことを考えていくことも重要だと思うので、団塊の世代の後も含めた基本目標の書き直しが必要だ。

本日は、非常に発展的なご意見が多かったので、それを上手く骨子に入れられたらと思う。これからも、このことについてご意見があったら、市の方にお伝えいただきたい。

5 その他

なし

6 事務連絡

事務局より、川越市介護保険事業計画等審議会における今後のスケジュール(案)を用いて、第4回の審議会を11月25日(火)に、第5回の審議会を12月24日(水)に開催いたします。詳細は、決定次第通知いたします。お忙しい中、恐縮ですが、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

7 閉会